

S 1-5 薬剤治療の展望

結城病院

窪田達也

いかなる患疾もその治療を考える際、病態の正確な把握が必要である。ALI/ARDS という症候群名を提示された時、どんな病態をイメージするであろうか。

単に肺の酸素化能の障害として考えるならば、体位変換、腹臥位療法、Open lung approach といった換気力学的、理学療法的アプローチが必要となってくる。

一方、急性肺障害の成因という場合には、肺胞マクロファージの活性化、好中球浸潤を中心にサイトカインをはじめとする各種メディエーターの関わりあいを中心テーマとなってくる。

ここでは後者の、肺の非特異的炎症反応で肺毛細血管を含んだ急性肺胞隔壁の炎症 (diffuse alveolar damage) の立場から、NF- κ B とステロイド、プロテアーゼの肺障害作用とプロテアーゼインヒビター、Toll like receptor 4 における LPS antagonist 等、近い将来、有望であると考えられる薬物を含めて、今後の治療法について検討してみたい。